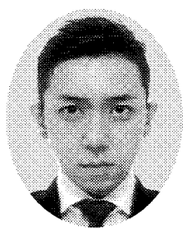
第10回 キャンパスベンチャーグランプリ中部

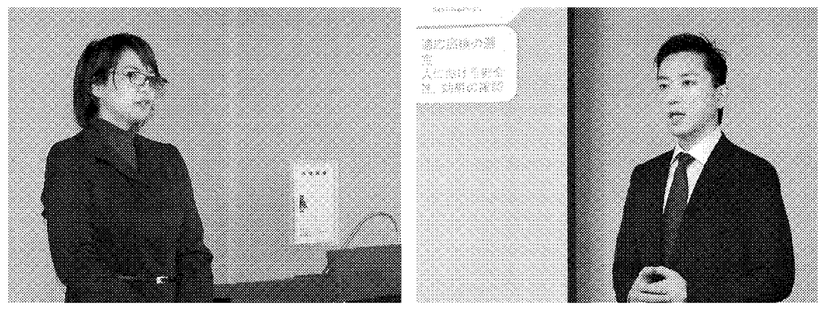
特別賞名古屋商工会議所会頭賞

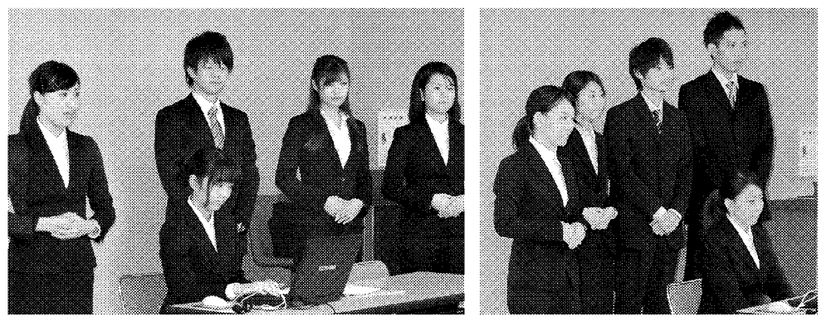
新規がん創薬及び個別化医療プラットフォームの開発


杉本　慶樹さん

名古屋大学医学部
杉本 慶樹さん

がん治療の新規薬剤の創薬を困難にしている根本原因は、薬効評価モデルが欠如している現状にある。本プランは、がんの臨床病態を適切に表現した薬効評価モデルをプラットフォーム化することで、新しい薬剤の創出に貢献するもの。検体移植マウスから取り出した患者由来の腫瘍細胞の細胞培養法開発にも成功しており、大量の薬剤スクリーニングにも対応可能。この培養法および薬剤スクリーニング法は名古屋大学から特許出願中。がん臨床検体移植マウスおよびその培養法を中心に、製薬企業に対して細胞の販売、薬剤薬効評価を受託しながら、オリジナルの新薬開発も進める。


医療、健康、エコといったテーマが多くプレゼンされた



特別賞日刊工業新聞社賞

入院生活で心の安全を保つためのケアシステム『TSS(therapy safety-net system)』

白石　みどりさん

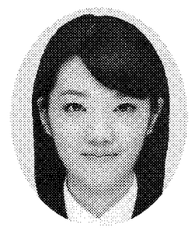
愛知学院大学心身科学部
白石 みどりさん

ストレスフルな病院環境の中で、患者に生じた心の混乱にセーフティーネットを提供するサービス。「TSS」は医療の知識を持った心理専門家チームで構成。対象は認知症や終末期、脳卒中など、個室を勧められた患者。各病気に合わせたセラピーケアプランで、患者の心のケアにあたる。

患者だけでなく、導入した病院側のメリットも大きい。看護師の業務負担を軽減し、離職率を抑えるほか、個室の稼働率を上げるなどの効果も期待できる。将来的には中・小規模の病院にも展開し、病気の悩みや不安をゆっくりと語れる場が用意されている医療現場づくりに貢献する方針。

特別賞名古屋産業人クラブ会長賞

「鮮度くん」～限りある資源を大切に～


細田　あやみさん

愛知淑徳大学ビジネス学部
細田 あやみさん
古田 敦司さん
森島 里帆さん
岩切 美香さん
浅井 怜衣さん

「鮮度くん」は食材の保存再生に効果があるといわれる「50度洗い」を手軽に行うことができる専用ポット。2010年度の家庭での食品廃棄物は1100万トン。食品が大量に廃棄される現状に何か打開策がないかと考えた結果、食材の50度洗いに着目、ちょうど良い温度に選定できる50度洗い専用のポットを考えた。ポットのサイズはキッチンスペースに無理なくおける高さ30センチメートル×直径23センチメートル。ポットに食材を投入し、2～3分後、内側のザルを取り出すだけで簡単に50度洗いが可能。野菜のほか果物や肉などでも50度洗いにより、うま味や鮮度が向上する。

奨励賞

教えてコンタクト

田中　小百合さん

愛知淑徳大学ビジネス学部
田中小百合さん
堀 文哉さん
高木 雅人さん
本橋茉冬美さん
山田 恵美さん

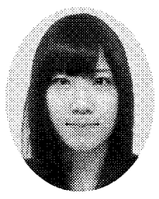
努力賞

～快適なお買い物を創造する～ショッピングカートベスト「hiloe」

高畑　広恵さん

豊橋創造大学
情報ビジネス学部
高畑 広恵さん

リファーラル・リクルーティング～リファーラルによる優秀アジア人材ハンティングサービス～


神山　恵さん

名古屋市立大学
芸術工学部
神山 恵さん

一橋大学商学部
麻生 輝明さん

プレゼンを興味深く傍聴する栗岡完爾実行委員長

2013年
産・学・官新年交流会
1月31日(木)
名古屋マリオットアソシアホテル16階

15:00　名古屋産業人クラブ新年会
　　第29回永井嘉吉記念賞顕彰式
16:00　新春経済講演会
17:00　第10回CVG中部表彰式
18:20　産学官交流会

名古屋中小企業投資育成
取締役　業務第二部長
鈴木 鉄男

応募プランは、学校での研究テーマのほか、身近な学生生活の中で特に留学生や就職活動にかかるテーマが目に付いた。現在の切実な課題が見えるようで新たなビジネスの可能性が感じられた。

プレゼンは年々向上していて頼もしいが、型を超えたプレゼンも見てみたい。ビジネス化という点では、実行者が誰かなどさらにリアリティーを意識した考察に期待したい。次回さらなるレベルアップを楽しみにしている。

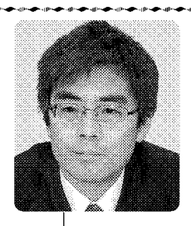
ミックインターナショナル
代表取締役
九鬼 綾子

ここ数年の中でも、今年一番印象深かったのは、応募してくる学生さんの資料作成のレベルの高さと時間通りプレゼンテーションを行う能力である。多くの学生が自ら考案したプランについて正確に第三者に伝える力を備えていたことは驚きでもあった。ただ、毎年CVGを継続していく中で、新事業に対する着眼点については、比較的類似もしくは以前に提案されたものと近い内容が見受けられ、審査に少々戸惑いもあった。来年もわくわくしながら「あっ」という提案を今から期待している。

東邦ガス　グループ事業部長
中野 智司

学生の皆さんの柔軟な発想に触れ、古くて堅い頭が少しリフレッシュされた。昨今の社会的な課題を真正面から捉えた志の高いプランがいくつもあり、とても頼もしく感じられた。

評価にあたっては、そのプランが何を新しく提供できるか、事業化までの道筋がしっかりしているかなどに重きを置いたように思う。今回審査したプランが実際に事業化されて、再びこの紙面に登場することを期待している。



公益財団法人　中部圏社会経済研究所
産業振興部　部長
青木 秀樹

全体的にインターネットやSNSを活用した提案が多かったが、簡単に広告収入があがる計画となっており、ビジネスとして物足りない面があった。しかし、若い学生の皆さんが社会との関わり方を真剣に考えており、発想や着眼点にはこちらも大いに刺激を受けた。

世の中の価値観が大きく変わろうとしている中で、新しいビジネスは必ず若い世代から生まれる。キャンパスベンチャーグランプリがその一助となることを期待したい。